

提子雜載

〔枕草子九〕心にくき物

物まいる程にや、はしかひなどのとりませてなりたる、ひさげのゑのたふれふすもみ、こそとどまれ、

〔後奈良院御撰何曾〕さびかへりたる劔のさき

ひさげ

瓶子名稱

〔伊呂波字類抄雜物〕瓶子ヘイシ

〔下學集下財〕瓶子ヘイシ

〔名目抄雜物〕胡瓶ヘイシ 瓶子ヘイシ

〔尺素往來〕酒者柳一荷略 中 相副瓶子。并銚子、提子、所謂設之也、

〔東雅十一器用〕瓶子カメ略 中 酒瓶の如きは、後俗また字音をもて呼びけり、ヘイシな瓶子、胡瓶などの如き是也、

〔倭訓栞前編二十七〕へいじ 瓶子の音也、酒をつぐもの也、節會の夜、殿前にとり瓶子といふものを置は、胡瓶子にて鳥頸の瓶子也、江次第に、胡國より來りたる器也といへり、

瓶子製作

〔饗應寸法〕瓶子

一高サ 一尺一寸二分 同口ノ高 一寸 同胴太身廻リ 二尺三寸八分 同細身廻リ 九

寸 同疊ズリ廻リ 一尺三寸 同疊ズリ縁高サ 六分 同口鬼頭 カツカウ次第

〔寸法雜々〕一瓶子の寸法

かた八寸のへいしは高さ八寸五分、ふたつけの廣五寸貳分、口の高さ八分、座の廣さ貳寸ヅ、のへいしも、大小共に是を以定むべしと云々、

〔今昔物語二十八〕左京大夫 付異名語第廿一

堀川ノ中將藤原 青經ノ君呼タル過可贖シトテ、殿上人皆不參ヌ人无ク皆參タリ、略 中 一人ニ

瓶子種類